



## シェイクスピアは なぜ面白いのか

言葉と出会う、人と出会う演劇の魅力

没後四百年が過ぎ、今なお世界中で上演され続けているシェイクスピア作品。戯曲の言葉を読み解きながら、数多くの舞台作品を製作した演劇プロデューサー 笹部博司さんが、芝居の魅力について語ります。

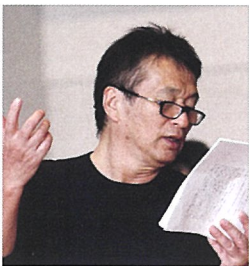
さらに、十一月公演の白石加代子「百物語」シリーズ・阿部定事件予審調書」の見どころを解説します。

2023年  
10月13日(金)

時間◆18:30(開場18:00)  
定員◆40名※事前申込み  
参加費◆1,000円

ささべ ひろし  
《講師》**笹部 博司** (脚本家・演出家・演劇プロデューサー)

笹部 博司 (脚本家・演出家・演劇プロデューサー)



1977年に演劇・戯曲を専門とする出版社「劇書房」を設立。海外のベストプレイシリーズ、寺山修司戯曲集などを出版する。1990年に演劇製作会社「メジャーリーグ」を設立。主な作品に、大竹しのぶ「奇跡の人」、古田新太・生瀬勝久「ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ」など。

1990年から2004年までマネージャーをつとめた白石加代子の作品では、武田真治(初演)・藤原竜也(再演)「身毒丸」、麻実れい「メアリー・ステュアート」、蜷川幸雄演出「グリークス」、白石加代子「百物語」シリーズなどがある。りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館の演劇部門芸術監督を1998年から2021年3月末まで務める。2016年より「りゅーとぴあプロデュース」による演劇作品製作をスタートさせる。白石加代子「オフェリアと影の一座」、高畑充希・白石加代子「エレクトラ」、井上芳雄・上白石萌歌「星の王子さま」など。

助成： 文化庁

文化庁文化芸術振興費補助金統括団体による文化芸術需要回復・地域活性化事業(アートキャラバン2)| 独立行政法人日本芸術文化振興会

